



は四国で2番
目、全国で29
番目の銀行が
創業され、四
国で最初に設
立した紡績工
場では、いち
早く自家発電
による電燈が
灯され、四国
で最初に電燈
が灯った町と

私たちのふるさと保内町川之石。人口は約3,100人。世帯数1,150戸。高齢化率31.4%（男26.3%・女36.0%）で、江戸末期から昭和初期にかけて海運や鉱山、木蠟、養蚕、金融そして紡績などの近代産業で栄えてきました。明治11年に

◆はじめに

特集 ⑥



川之石地区公民館 主事

菊池 敏和
(八幡浜市)



“私のふるさと”と 公民館活動

いわれています。

進取の気風あふれた土地柄で、先人たちが英知を結集して今日の繁栄を築いてくれました。

◆地域と共に歩む公民館活動めざして

「集う・学ぶ・繋がる」場であるべき公民館ですが、残念ながら私たちの川之石地区には、活動の拠点ともなるべき公民館施設がありません。市内の教職員住宅の研修施設を借りて、館長（非常勤 主事、主事補の3人が勤務しており、年間を通じて次のような活動をしています。

- ・公民館祭り（地域活性化に向けての起爆剤）
- ・盆踊り大会（今年で41回目を迎えました）
- ・年2回の川之石をきれいにする運動（37年も続いています）と花いっぱい運動
- ・子ども共同生活体験学習事業「やんちゃ村」
- ・三世代交流会（しめ縄づくりと餅つき）
- ・東日本大震災被災地への支援活動
- ・スポーツ、レクリエーションの普及
- ・毎月発行の公民館報

そして、学社連携・融合事業としての家庭教育学級の開設や各種団体との共催事業、また、小学校運動会や中学校文化祭などには、公民館をあげて応援しています。地元の川之石高校の活躍や行事なども、公民館報で紹介しており、学校教育と社会教育がコラボしながら、住民参加型の公民館活動を

めざしています。

あの東日本大震災は決して他人事ではありません。被災地への支援活動は大切なことです。私たちも義援金活動

はもとより、被災地でのボランティア活動や、福島キッズとの交流事業などを通して、風化させずに、被災地の皆様の気持ちに寄り添った支援活動を推進しています。

しかしながら、公民館は何をしているの、公民館活動って必要なの：そんな声を聞くこともあります。一人でも多くの皆様に公



三世代交流事業によるしめ縄づくり

◆明治の面影を色濃く残す
町並みと保存活用

民館を理解してほしいし、参加していただきたい。そのために公民館は何をすべきでしょうか。住民が主役の公民館活動とあわせて、地域の良さの再発見、歴史や文化を後世に伝えることも、大切な役割ではないでしょうか。



やんちゃ村での自然散策

「バイカラな町」川之石には、近代化を支えてきた産業遺産が数多く残されており、明治の町並みとして親しまれています。町内外から年間、1,500人の方々が訪れて、町を散策されています。

国の登録有形文化財に指定されている愛

媛蚕種（西日本で唯一の蚕種製造会社）をはじめ、明治30年代の建築物である「白石和太郎洋館」「レトロな雰囲気醸し出す「美名瀬橋」全長350mの遊歩道」「もつきんロード」と、対岸の青石護岸（矢羽根積工法）、そして、町の繁栄を支えてきた、旧東洋紡績川之石工場跡地の「赤レンガ倉庫」などの歴史的建造物は、町のシンボルとして、親子へ、子から孫へ、そして今、地元のボランティアガイドの皆さんによって、大切に語り継がれています。

このような歴史的建造物の保存活用は、大切なことであると同時に、大変難しい側面も抱えています。

前述したように、「館」を持たない川之石公民館にとって、「館」を持つことは悲願でもあります。

そんな中、近代化遺産である赤レンガ倉庫を後世に残そう。赤レンガ倉庫を保内の交流拠点（ランドマーク）として保存しながら有効活用はできないか。その、交流拠点の一部を公民館として活用はできないか。そんな取り組みが始まっています。

生涯にわたって学習する人間



公民館まつりでの「うみほたる」被災地の復旧・復興を祈念して

形成の場として、ふるさと川之石の歴史と文化を語り継ぐ施設として整備され、さらには、地域活性化の切り札として実現化されることを切に願うものです。

◆これからの公民館活動

亀は自分のねぐらを掘るとき、自分の身の丈に合うだけの穴しか掘らないそうです。「ひとづくり・まちづくり」を担う公民館活動は、それではためなのです。人と人がふれあいながら、地域で、そして家庭で、人々を思いやる教育力の向上をめざすのが、公民館活動の原点ではないでしょうか。

常に住民ニーズを把握し、がんばる人を応援しながら、住民の幸せを追求していく公民館活動でありたいものです。